

# ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉を  
ひらく●道をひらく●口・目をひらく●  
花がひらく●運をひらく●文化を  
ひらく●インターネットをひらく●新  
聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

2017.3

特集

多様な生き方ができるまち

40

男女共同参画社会をめざす

# 多様な生き方ができるまち

かつては、学校を卒業すると就職し、男性は定年まで働き、女性は結婚するまで働き、その後は家庭に入り子育てや家事をする、というのが多くの人々の生き方でした。しかし、今は違います。それぞれの人がやりたいことをやるようになって、生き方は多様になってきました。私たちの周りにも、個性的で素敵な生き方をしている人がいます。

## 赤ちゃんのように自然に

いいだ ひでお  
飯田 英夫さん



赤ちゃんは誰に教わることなく言語を習得します。飯田英夫さん、美恵子さんご夫妻は小平でチェミツン・ファミリーを開いて29年、多言語が習得できる環境を創ってきました。ファミリーには赤ちゃんからシニアまで幅広く集い、歌ったり、話したり、ゲームやダンスで遊びながら、言葉と人間を追求しています。「赤ちゃんのように自然に」を合言葉に、本職以外で地域活動を長年に渡り続けています。

## 歩くのが大好き!

あべ ゆたか  
安倍 寛さん



小平に活動拠点を置く多摩ハイキング同好会の会長を務める安倍さんはオーバー80。若い時から歩くことが大好き。歩け歩け運動に参加して日本だけでなく世界の道を歩いてきました。今は多摩ハイキング同好会の運営リーダーとして、また、ハイキングの現役リーダーとして、月1回、多くの会員とともに都内および周辺地域の町並みや街道、里山を歩いています。

## フレスコ画家

ず けらん  
瑞慶覧 かおりさん



再来年幼稚園に入園予定のお子さん(2歳)の子育てをしながら、フレスコ画家として活躍する瑞慶覧さん。昨年末には銀座三越が現代アートの世界で将来を期待される若き才能を紹介する「GIFT in BLOOM」5人のうちの1人に選ばれ、新作を18点出展しました。制作は早朝とお子さんのお昼寝時間。子育てと作品に愛情を注ぐ姿は、子育てママの励みになると思いました。





## 『地域のこと、一緒に考えたい』 かみお 神尾 直志 さん



市内の道路計画をきっかけに、開発による環境問題は深刻だと考えるようになったといいます。実際に予定地を歩いてみる活動では、参加者から「知らなかった」という驚きの感想がとても多いとのこと。日常に埋没しがちな地域の課題を丁寧に調べ、地道に提唱し続ける姿は本当にカッコイイ。



## 『男女共同参画都市宣言を目指す』 あさみ 浅見 玲子 さん



小平市に男女共同参画推進条例ができたのは平成21年でした。このとき、30数年間、女性の地位向上、男女共同参画社会づくりを進める活動をしてきた浅見さんは、市が男女共同参画を進めていることを広く市民に知らせるために、「男女共同参画都市宣言」をすべきだと話されていました。

浅見さんが所属する「小平市女性のつどい」は昨年、市議会に「小平市における男女共同参画の施策を具体的に進めることについて」の請願を提出し、採択されました。その結果、平成29年度から6月23日～29日の男女共同参画週間に、男女共同参画推進を市民に周知する懸垂幕が市役所の庁舎に掲げられることとなります。

## 『コンサートのチラシをつくる』 まつむら たつお 松村 達男 さん



松村さんは鈴木町に住んでいます。定年前の仕事はデザイナー、今も少しずつ続けるかたわら、市民活動で知り合った仲間達と音楽イベントをひらく活動に参加しています。10年ほど前から小平で続いているタンゴコンサート（ファームей・タンゴコンサート）のチラシ作りもしています。最近ではチャリティーコンサートなどのチラシも。「自分の自由な発想が生かせる活動を、毎回楽しんでいます。音楽や美術を通しての市民活動をこれからも続けていきたいですね。」

## 『勉強しなきゃ』『話さなきゃ』

さかぐち 坂口 洋子 さん つねとも 常友 陽子 さん  
しらえ 白江 秀人 さん いわた 岩田 幸子 さん



「素人として憲法のことを考えていきたい」「憲法のことを考える人が少しずつ増えていってほしい」と話しつつ、ちがった意見も聞こうという柔軟性がある人たち。仲間と開いている憲法カフェに集まってくるのは、本当に多様な人たちだといいます。

写真左から  
常白江さん、  
坂口さん、  
岩田さん

## 和風日和の小金井公園に 待ち人来る

やまだ やすひさ 山田 裕久 さん



「風づくりが上手い人はしっぽがない凧を高く上げられる」と聞いたとおり、山田さんの和凧は豆粒くらいに見えるほど青空高く気持ちよく上がっていました。釣竿を改造した凧リールからずん糸が繰り出され、凧は点になります。凧好きがひとり二人とやって来ます。子どもを連れた人、若夫婦、年配夫婦、女子大生、「凧持ち」の人……。いい凧も勘定に入れて、いつもの場所に「待ち人来る」の生き方をする山田さんがいました。

# 多様な生き方ができるまち

被災地のために地域のために  
自分のために

ほそえ たくろう  
細江 卓朗 さん



2011年の東日本大震災が起きたとき、先頭に立って小平市から被災地に人や物を運び、支援活動をされた細江さん、笑顔が素敵な男性です。その後、地域のための活動をされていますが、なぜか細江さんの周りには、たくさんの市民が集まって来ます。「みんなの音楽祭」は楽しいイベントでした。きっと自分のためにも楽しい時間を過ごされている気がします。

幹がしっかりした人は美しい

わたなべ みさお  
渡辺 操 さん



大学生から小学6年生までの4人の子どもの母であり、障がいのある子どもへの運動指導、さらに地元を中心に女性のためのピラティス教室をいくつも持つ渡辺さん。一体そのパワーはどこから？ と驚いていると、「身体のこと、食べ物のこと、自分が学んだことをもっと発信していきたい」と話す渡辺さん。身体の幹を鍛えると人はこんなにも強く、美しくなれるのかと思いました。

3人の子どもを育てながら  
多様な仕事を

いわしま としこ  
岩嶋 寿子 さん



小平市男女共同参画センターで「ワールドカフェ」のファシリテーター（進行・調整役）をされている岩嶋さんは、高校生から大学生の3人の子どもを育てるママ。キャリア・コンサルタントとして仕事をされているだけでなく、三鷹市の障がい者就労支援センターの非常勤職員でもあり、コミュニティカフェを理事として運営されています。とても明るくて感じのいい女性です。

ボランティアで  
モンゴル音楽のコンサート

こいぬま てるこ  
鯉沼 テル子 さん



モンゴルの留学生を支援していた鯉沼さんはモンゴル音楽の演奏者とも親交を深め、子どもたちに素晴らしい音楽を聞かせたいと、社会教育委員の大杉さんの協力のもと、小学校で国際理解の出前授業として、珍しいモンゴル音楽を紹介しました。ルネこだいらのレセプションホールで念願のコンサートを開催し、「馬頭琴、喉歌、舞蹈」で観客を魅了しました。

子どもクラスの見守り役

ながの くみこ  
長野 久美子 さん



長野さんは話します。「子どもの頃から親の転勤で引越しばかり、結婚してからも夫の転勤でまたしても引越しの連続。小平に来て、初めて一箇所に住むということを実感できました。4年前から誘われて、小平第十小学校の『十小子どもクラブ』の見守り役をしています。十小は子どもが卒業した小学校で、見守り役で図書室の椅子に座ったとき、とても懐かしくて、母校にやっと帰って来た感じがしました。子ども達のそばにいと、自分が浄化されたような気持ちになります。」

『ヨガ教室を30年』

まつだ **松田 かつ代** さん



松田さんは長年料理のお店を営んでいました。立ち仕事からくる腰痛に悩みヨガを始めて30年。その経験を活かしてマンションの住民を対象にヨガ教室を開き、東村山市ではボランティアで高齢者のためのヨガ教室も続けています。マンションで開かれるイベントでは料理の腕を発揮するなど、人との出会いを大切に生き生きと暮らしています。

『ゆるやかにいつも本気』

たかなし こうすけ **高梨 孝輔** さん



在職中は育児時間延長を獲得するストライキを指導。退職後は田島征三さんの講演会で日の出町のごみ最終処分場問題を知り、ごみ減量、資源循環に取り組む高梨さん。庭のない住宅向けに段ボールを使って生ごみを堆肥にし、その堆肥で野菜をつくる資源循環を勧めています。

『「風鈴草」で待ってます!』

ふくもと しのぶ **福本 志濃夫** さん (通称:ポブ)



公園や緑地の設計の仕事しながら、子ども達の大切な成長の場・プレーパークで“遊びの達人”として人気のポブ。今年の4月からは新たに、大人と子どものたまり場「風鈴草」の運営もはじめるとか。地域で大人と子どもが普通に挨拶や会話を交わし、時には一緒になって遊ぶ…。あたりまえの光景がまた一つ、小平市に誕生することはうれしい限りです。

『玉川上水のよき語り部』

みやにし さき **宮西 咲** さん



宮西さんは話します。「兵庫県西宮市で生まれて、結婚後は福岡県久留米市に住んでいました。10数年前に西東京市へ、そして3年前初めて鷹の台の駅に降りたとき、これだ!!と思ったんです。単線の小さな駅と、緑豊かな景色に圧倒されてここに家を持ってしまいました。玉川上水の魅力に取りつかれ、何とかこの素晴らしさをアピールできないかと、英語で玉川上水をガイドする活動を始めました。『玉川上水ストーリーテラーズ』と名づけたこのグループで、仲間達と玉川上水のよき語り部になれたらと思っています。」

男女共同参画推進実行委員会 主催 小平市



異なる人と暮らすにはどうしたらいいか?悩んでいる人にわかりやすい方法を話され、多様な生き方を認め合うことの大切さを知ることができました。

第20回 女と男のフォーラム  
講師 香山リカさん  
第20回女と男のフォーラムは、精神科医で立教大学教授の香山リカさんを講師にお招きして、平成29年2月26日午後2時から小平市中央公民館のホールで開催されました。  
男性や若い方も多く参加されて177人、満員になった会場で、香山さんは「私らしい生き方で、幸せになる」というテーマで、90分休みなく話されました。男性と女性そしてLGBT、年齢、職業、生き方、性格などが

第20回  
女と男のフォーラム

## 市の取組を 紹介します

### 改定のポイント

- 社会経済情勢の変化等を踏まえ、計画期間を10年間から5年間に改正しました。
- 小平市男女共同参画推進条例にのっとり改定しました。
- 積極的に取り組む内容を3つの重点項目として設定しました。
- 施策ごとに指標を決め、平成32年度までの数値目標を設定しました。



## (第三次小平市男女共同参画推進計画)ができました!

### プラン21の基本目標

基本目標Ⅱ あらゆる分野における男女共同参画と女性活躍の支援

基本目標Ⅳ 男女共同参画の推進体制の強化と環境の整備

小平市には平成21年に制定された「小平市男女共同参画推進条例」があります。この条例にのっとり、基本理念、基本的視点から施策の体系が作られています。

計画の素案に対する市民意見公募手続き（パブリックコメント）期間中（平成28年11月18日～12月17日）に市民懇談会（3回）、男女共同参画センター利用登録団体懇談会（1回）を開催し、全部で59件のご意見をいただきました。ご意見をいただいた皆様、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。今後も男女共同参画社会の実現に向けて、市と市民、事業者が一丸となって取り組んでいきましょう！

※「小平アクティブプラン21」（第三次小平市男女共同参画推進計画）は、小平市ホームページで閲覧できるほか、市役所1階市政資料コーナー、東部・西部出張所でも閲覧することができます。なお、市政資料コーナー、東部・西部出張所では、1冊750円で販売しています。



市民懇談会の様子

### コラム 男女共同参画週間

◎内閣府では、男女共同参画社会基本法に関する国民の理解を深めるため、同法の公布・施行日である6月23日に合わせて、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」と定めています。毎年テーマに沿ったキャッチフレーズとポスターが作成され、中央行事として「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が開催されます。

小平市でも、この期間に周知と理解のための展示等により、広報・啓発活動に取り組んでいます。



男女共同参画

6月23日～29日男女共同参画週間  
自分らしく生き生きと暮らせるまち小平



小平市  
男女共同参画センター  
0562

平成29年度から男女共同参画週間に市役所正面入口横に懸垂幕を掲げます。↑

小平市では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現のため、平成29年3月に第三次となる小平アクティブプラン21（第三次小平市男女共同参画推進計画）を策定しました。

小平アクティブプラン21は「基本目標」「施策」「施策の方向性」の3段階の体系になっています。その下に全部で52の事業項目を掲げ、小平市、市民及び事業者が一体となり、男女共同参画社会の実現をめざします。

# 小平アクティブプラン21

## 小平アクティブ

基本目標Ⅰ 男女共同参画によるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現

基本目標Ⅲ さまざまな困難を抱える方にとっての安全・安心な暮らし

### 重点項目

基本目標Ⅰ 男女共同参画によるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現

施策2 仕事と生活の両立支援

男性の家庭参加（家事、育児、介護等）の推進 **重点**

男性向け家事・育児・介護講座、父親参加の育児支援イベントを開催します。

また、介護に対する意識啓発、情報提供を行います。

基本目標Ⅱ あらゆる分野における男女共同参画と女性活躍の支援

施策1 女性の職業生活における活躍支援

（※女性の職業生活における活躍の推進計画として位置付けています。）

女性の就業・活躍の支援 **重点**

女性の就職・再就職・起業や職業能力開発のための教育・学習支援セミナーの開催や情報提供、事業者への支援を行います。



基本目標Ⅲ さまざまな困難を抱える方にとっての安全・安心な暮らし

施策3 女性に対するあらゆる暴力の根絶のための施策の推進

（※配偶者暴力の防止及び被害者保護等のための計画として位置付けています。）

配偶者等からの暴力（DV）の防止と被害者支援の充実 **重点**

女性への暴力と人権侵害防止に関する知識の普及・啓発、市の体制整備と関係機関との協力体制の強化及び女性相談の周知と充実に努めます。

# ひろく広場

## 原稿をお寄せください

ひろくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字以内)には〒、住所、氏名(ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可)、年齢も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先/小平市小川町二丁目1333番地  
小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課  
「ひろく広場」係 FAX 042-348-9575  
kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp



## 「私もやりたいのよ。」

私は、母親が東京、八王子の病院に入院加療中のため、家族介護の問題を、ここ数年考えさせられ、無力とは感じつつ家族介護を考えるつどいに参加させてもらってきた。

1月に東京飯田橋にある社会福祉法人 東京都社会福祉協議会、東京ボランティア・市民活動センター主催の「家族介護を考えるつどい 介護者支援でつながろう」の分科会に参加させていただいた。

率直な議論の中、考えさせられたのは東京都内の地域包括支援センターに勤めておられるA様の「私もやりたいのよ。」という発言であった。やりたくてもやれない、彼女の言動や行動を抑制しているものは何か? どんな職業従事者でも体験す

る人間集団の問題か? 財政面における不都合か? 或いは勇気か? 恐らくこれらのファクター+アルファ。組織にいればだれもが実感する、行動を抑制している気質。そう、「自らの立場」である。

(K・H)

## 地域に無縁なイクメン

「イクメン」という言葉が新語・流行語大賞のトップテンに入ったのは2010年です。当時私はサラリーマンでしたが、子どものいる男性社員の多くは子どもの話をよくしていましたし、積極的に育児参加をしている人も多くいたように思います。

2016年のトップテンには、「保育園落ちた日本死ね」が入り、待機児童問題に一石を投じました。イクメンが増えるだけでは女性の職場復帰の困難を解決できないようです。

育休中、家族と暮らす地域で奮闘していたイクメンたちも、育休が終われば懐かしい同僚たちのいる会社に戻ります。イクメンたちの「縁」は家庭を取り巻く地域になく家庭から遠い会社にあります。地域に「縁」があれば、もう少し子どもを育てやすくなるのかなと思います。そう言えば「無縁社会」という言葉が流行語にありました。(山本高大)

## 登録団体FILE①

### こだいらDV防止ネットワーク (略称:P ネット)

2008年の読書会からスタートした、こだいらDV防止ネットワーク。その後もDV(ドメスティック・バイオレンス=親密な男女間の暴力)への偏見や誤解をなくすための勉強会を重ね、市や公民館主催の奨励学級では当事者への支援のための実践講座を行い、また「DaVeリ場(だべりば)」という気軽におしゃべりができる場も設けてきました。



東京YMCAによる電話相談研修を受けたスタッフが交代で対応しています。

さらに2014年からは、当事者への直接的な支援として電話相談も始めました。同じ市民として相談を受けつつ、より専門性のある団体や行政の窓口につなげます。



年2回発行(予定)の「Pネット通信」。公民館や地域センターで入手できます。

「支え合う“わ”をつくり、DVに悩む人に寄り添いたい。」少しずつでも理解や支援の“わ”が広がれば、暗闇の中で独り悩み立ち止まる人に、一筋の光を差し込むことができるのではないのでしょうか。

地域での“わ”の一つ、Pネットでは会員・賛助会員を募集しています。

#### 会員・賛助会員募集

趣旨に賛同する方ならどなたでも!  
会費→会員:月500円、賛助会員:年2,000円。  
連絡先→pnetkodaira@gmail.com

男女共同参画センター“ひろく”は、市内で活動する個人や団体を応援しています。

# あなたの明日をひらく相談室

## 「女子向け」の仕事と男女雇用機会均等法

**Q** 4月から働き始める女子学生のひとりです。就職活動期間中、「女子向け」という言葉を聞いたたびに仕事と性別は関係ないと思うので、ずーっと違和感を感じてきました。また、男性の先輩がハローワークで事務職を希望したところ、これは「女性向け」の仕事だからと、営業職を選ぶよう勧められた話も聞きました。

祖父母や父母の時代とは比較にならないほど仕事の選択肢が広がり、男女雇用機会均等法もあって、男女が共に働きやすくなったようにみえますが、実際は違うようです。均等の基準は男女の真ん中にあるのではなく男性側にあるらしい。だから「女性向けの仕事」と言ったり、男性と同じように働くことを強要されて自死する人もでたりするのではないのでしょうか。働くことが心配になります。法律は働く人たちの味方にならないのでしょうか。(J.Z)

**A** 日本国憲法が、すべて国民は、勤労の権利を有する(27条)、すべて国民は、性別により、経済的又は社会的関係において差別されない(14条)、とうたって70年。すべての国民が個人として尊重される(13条)ということは、性別や障がいなどの事由にかかわらず、職業などの社会的活動と家族生活などの私的活動をつうじて、自分らしく生きていこうとする個人の生き方が、かけがえないものとして尊重されることを求めています。

しかし現実には、日本社会の性別役割分業意識は強固です。男性が稼ぎ、女性が家事・育児・介護を担う

「男性稼ぎ主型家族」をモデルにした税制、社会保障制度、企業の家族手当制度などが私たちの生活を支えているため、合理的選択として、多くの女性たちが出産によって仕事をやめ、賃金などの労働条件が劣っても非正規の雇用形態を選び、男性たちは長時間労働を引き受けてきました。職場の方針決定を行う経営者・管理職は圧倒的に男性のままで、男性労働者をモデルとする職場の男性中心主義の制度・慣行は変わっていません。

男女雇用機会均等法は、あからさまな男性職・女性職の区別、女性の結婚・出産退職制などをなくしましたが、出産保護以外の一般女性保護を、必要に応じて男性を含むすべての労働者に拡大するよりも、保護を撤廃して男性との平等をはかり、過労死や少子化を生む男女共通の働き方の問題は放置されてきました。並行して進行した雇用の非正規化による労働条件の悪化は、「女性稼ぎ主型家族」の生活を直撃しています。

均等法は、行政指導の根拠法にすぎず、違反行為が法的に救済されるわけではありません。それも、同じ雇用管理区分内の男女比較しか扱わず、見かけ上性に中立だが女性に差別的効果をもたらしている制度や慣行への対応は極めて限定的です。均等法の強化とともに、性別を問わず家族責任をもちつつ働ける労働基準法制の実現が必要だと思います。

(津田塾大学教授 武田万里子)

## 「表紙作品について」

### 柏木宏恵さんの「花のやさしさ」

『ひらく』40号の表紙は、昨

年11月29日から12月22日まで、小平駅近くのルネセブン街商店会と中央公民館で開催された「異才たちのアート展」に出展された作品103点の中から選ばせていただきました。素敵な作品がたくさんあつて迷いましたが、春らしい、明るい作品ということで、柏木宏恵さんが描かれた「花のやさしさ」を選びました。「大好きな花を思い切り描きました」と柏木さんがおつ



しゃるこの作品は、見る人がみんな明るい気持ちになれる作品で、『ひらく』の表紙にぴったり。この作品を昨年10月15日にオープンした「小平ファーマーズ・マーケット」の屋上で撮影しました。

屋上の花が咲いている庭園に柏木さんの作品を置くと、描かれた「花のやさしさ」が目いっぱい飛び込んで来て、カメラマンの長塚さんもニッコリ。

ご協力いただいた、社会福祉法人黎明会 のぞみ作業所の岩田駿さん、J.A東京むさし 小平ファーマーズ・マーケット店長の清水大さんにお礼を申し上げます。





# 『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。

## 『職場のLGBT読本』

柳沢正和・村木真紀・後藤純一 著  
実務教育出版 発行  
2000円＋税



最近よく目にする「LGBT」の4文字。Lレズビアン、Gゲイ、Bバイセクシャル、Tトランスジェンダーの頭文字をとったもので、性的マイノリティの略称として使われている。ただし、現在は「性的マイノリティ（LGBTなど）」と表されている。「など」とされているのは、心と体の性はさまざまで、人それぞれ、グラデーションと表現されるように多様だからである。

「ありのままの自分」で働ける環境を目指して、という副題が添えられている本著は、基礎知識をはじめ職場環境における課題とその対応、実例（インタビュー）も収録し、具体的な項目立てで分かりやすくまとめられている。

シンボルカラーにレインボー（虹色）が使われているように、「赤でなくてはダメ」とか、「緑は嫌い」とかではなく、それぞれが輝く社会のために、多くの人に読んでもらいたい一冊。

(S)

## 『アフロ記者が記者として書いてきたこと。退職したからこそ書いたこと。』

稲垣えみ子 著  
朝日新聞出版  
1300円＋税



初めて稲垣さんのアフロヘア写真を見たとき、ここまで奇抜なことをしないと女性には記者として原稿を書かせてもらえないのかと驚いた。が、アフロは思いつきで始めたことであり、新聞記者だから当然読みやすい文章を書く人だった。どの文章も人として納得がいくものばかり。退社してからは電気代月200円生活を書く。この冬、ある会社の湯たんぽが寒くなる前に完売したのは本書の影響にちがいない、と寝床の中で湯たんぽに足を伸ばしつつ思った。(ゆ)

## 『出産・育児ママのトリセツ』

山本ユキコ 著  
忘羊社  
1400円＋税



本書の帯にある「なぜあなたの妻はイライラしているのか？」この言葉に子育てをしている私は「ハッ」とした。男性なら自分の奥さんを思い浮かべただろう。

今の時代の子育ては「チーム」で行うのが基本だが、男と女では子育てに関する考え方や姿勢が異なるため、出産前後に程度の差はあれ夫婦にバトル（喧嘩）とクライシス（危機）が起こるものであるとして、著者は平等なチームメイトになるための秘策をわかりやすく書いています。

トリセツ＝取扱説明書という表題通り、本書は新米パパが読むべき本だが、新米ママにも自分のこと、夫のことがわかる本だ。夫婦にとってお互いのトリセツだ。(ま)

## 『50オトコはなぜ劣化したのか』

香山リカ 著  
(小学館新書)  
760円＋税



世間がリーダーになってほしいと期待するのは50代の男性だが、リーダーをしている男性は少ない。どうしてか？同じ50代の著者が分析して「劣化」を証明したのが本書。その上で、著者は「世界も日本も今、あなたを必要としている。その目を広く社会に向けよう！」と男性に訴える。男性には励みになる本である。

(K)

行って  
みました

## 女性のためのコワーキングスペース「すだち」

「学ぶ」「試す」「つながる」女性の仕事へのチャレンジを応援!!

# 働きたい女性の初めの一步を支援する

一橋学園駅から学園坂商店街を下って行くと、左側に「すだち」があります。前を通ると思わず足を止めて、大きな窓から中をのぞきたくなります。カフェのようにテーブルとイスが並んだ店内も、明るくて心地よさそう。入ってみて驚くのは、テーブルは全て1人用です。ノートパソコンをテーブルに置いて1人で仕事している人が3人ほどいました。ここは仕事場なんですね。

2階には、セミナールームとサロンスペースと保育スペースがあります。この日は午前10時から2時間、セミナールームで「学んで実践 ライター講座」が開催されていました。子どもを保育スペースに預けてセミナーを受講できるので、子どもがいても安心です。

この日の講師は、元日本経済新聞の記者で、今も編集の仕事をしている坪田知己さん。坪田さんは参加者に「他己紹介」という実践的なワークをさせておられました。参加者が2人1組になって5分ほど話し合

い、その後、話した相手のことを紹介する原稿を書くのです。原稿を書き終わると、坪田さんが順に参加者を指名して、書いた原稿の見出しを質問されました。すぐ答えられる人答えられない人、答えると笑いが起きる人そうでない人など、様々でしたが、なるほど「思いが伝わる文章の書き方」には見出しが大事なんだ、と思いました。

講座が終わって1階に降りると、ランチタイム。この日は水曜日、「歩っほ食堂」のランチが食べられるというので850円で注文。ここのランチは砂糖を使っていないうえに、「まごわやさしい」をキャッチフレーズに不足しがちなビタミン、ミネラル、食物繊維が取り、カロリーも約800キロカロリーで、とても健康的な食事です。「すだち」の1dayキッチン、飲食での開業を目ざす女性の実践の場。火曜日のランチは、おいしいお粥が食べられる「米のしずく」が営業しており、2階の1dayサロンでは、火曜日が「さるのこしかけ」（鍼灸・マッサージなど）、木曜日が「ボディ・セラピー Huali—ふあり」がオープン（3月6日現在）しています。（き）



### スキルアップ講座（2016年度実績）

- 「就労プロデューサーになろう（初級編）」
  - 「学んで実践 ライター講座」
    - ※火曜日 「視野が広がるライターの仕事」
    - ※水曜日 「生活者視点を活かす文章術」
- ★講座の最新情報は下記URLでご確認下さい。  
<http://sudachi-kodaira.jp/seminar/>

### コワーキングスペースの利用方法

1階の仕事場スペースは、ノートパソコンの電源があり、インターネットの接続もできるので、パソコンを使った仕事に最適ですが、少人数の打ち合わせもできます。

★ご利用料金など、詳細は下記のURLでご確認下さい。  
<http://sudachi-kodaira.jp/space/>

- 所在地：小平市学園東町1丁目9-15
- 営業日時：平日10時～17時※休館：土・日・祝日・お盆・年末年始

※小平市公式子育て応援サイト「こだち」では、小平市とママライターが発信する子育て情報を公開中！

## ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館（11館）、図書館（11館）、地域センター（19館）、大学（6か所）、福祉会館、市民総合体育館、児童館（3館）、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局（17か所）、市内各駅（7か所）、ふれあい下水道館

小川町 手作りリクッキーの店歩、商工会館、JA東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院

小川西町 佐野商店、たましん小平支店、NMCギャラリー、小川ホーム

小川東町 ギャラリー青らんぎ 上水本町 アトリエ・パンセ

学園西町 ビューティーサロンサンローズ、梁里館、美容室へアグラッシュ、本間歯科、へアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん、笹間住宅資材、たましん一橋学園支店、学園接骨院、国際交流協会

学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、リソな銀行小平支店、東京都民銀行小平支店、おだまき工房、きぞ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室Je、とりあん、一橋鍼灸接骨院

美園町 多摩済生病院、カフェラグラス、珈琲の香、POEM（ぼえむ）、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、子育てサポートきらら

仲町 小平消防署 大沼町 ガスミュージアム

花小金井 風のシンフォニー、公立昭病院

## 編集後記

●平成9年1月に創刊された、男女共同参画社会づくりを目指す広報誌「ひらく」は、今号を以って40号になりました。最初は女性ばかり13名の実行委員が企画、取材、編集、校正をしていましたが、今年度は男性4名、女性11名の実行委員が「ひらく」の企画から校正までの作業を行いました。女性も男性も多様な生き方ができるようにできていますが、自分らしい生き方でだれもが幸せになれる社会を目指して「ひらく」は、これからもみなさんに役立つ情報をお届けします。

●今年度、小平市男女共同参画推進実行委員になりました。「男女共同参画」という言葉は知っていても、それが何を指すのかわからない、という声があるので、よりわかりやすく、身近な問題と感じてもらえるよう活動していきたいと思っています。（阿部直子）

（北川紘二）

小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

## いきいき レディ38



### 自分の価値は自分で決めたい！

サイン・カフェ「ベリーユー」(鈴木町)を経営する  
**廣田かおりさん**

廣田さんは生まれつき耳が聞こえませんが、でも、事務の仕事、レストラン、パンの製造販売の仕事をした後、2年前、2015年3月1日にサイン・カフェ「ベリーユー」をオープンしました。

どうしてカフェを? という疑問に、廣田さんは「私が聞こえないことを聞こえる方に知ってもらって関心を持ってほしかった」と答え、「聞こえない人や障がいのある人がいつも気軽に立ち寄れる居場所があればいいなと思って、自分でつくことにしました」と話されました。そんな思いがサイン・カフェ「ベリーユー」という店名に表現されています。

サインは、耳が聞こえない人が話す方法である「手話」を意味する言葉です。「聞こえる聞こえないの違いがなくても、人はみな違います。違っていても、その人自身に向きあいたいと考えたからです」と、廣田さん。違っていても、見たり話したり、行動を共にしたりしていると人は親しくなれる。そんな場にカフェがなれば、と考えたのです。

ベリーユー (very you) は、「あなたらしい」という意味で、「ご来店下さるみなさんが心をほぐして自分らしい時間を過ごしてほしい。自分を取り戻したり、気が付

かなかった自分のよさを発見したりする時間を過ごしてほしい」と、廣田さんは思っています。

そのために用意されているのが「ベリーユーノート」です。来店された人が感じたこと、思ったことを自由に書けるノートです。人が書いた文章を読んで感じたことも書けますから、ノートに書いたりノートを讀んだりしてお客さんは自分らしい時間を過ごせるのです。

静かに本を読みたいお客さんのために本や雑誌が置かれています。コーヒーを飲みながら本を読むのも楽しいですが、「ベリーユーの小さな図書館」というコーナーでは本の貸し出しもしていて、1回1冊、2週間借りられるそうです。

廣田さんの喜びは、「お客さまがここでだれかと出会い、新しい自分を見つける」こと。それは、自分のいいところがわからなかったときに、自分とは違う人に教わった体験から気付いたことです。「誰もが夢をかなえる力を持っていると信じていますが、無理だと思ったり思い込まされたりする人がいます。障がいがある人に自分の可能性を見直してもらいたい」という廣田さんは「自分の価値は自分で決める!」という考えを実践しています。

## 小平市男女共同参画センター 最近の動き

### だれもが思いを話せるワールドカフェ

生き方、働き方について、自分の思いや考えを話せるワールドカフェが参画センターで初めて開催されたのは3年前、平成26年の男女共同参画週間でした。

今年も2月4日と21日の午前10時から開催されました。

4、5名ずつ1テーブルを囲み、コーヒーを飲みながら話をすると話しやすいし、聞きやすい。「そうね」と言ってくれる人もいれば、「こうしたらいいじゃない?」とアドバイス

してくれる人もいて、ついつい本音を話してしまいます。

そして、テーブルを移動して参加者全員と話せるようになっていきますので、年齢も性別も性格も違う、いろんな人と話していると、自分一人では気づかなかったことに気づくことがあります。そんな体験は簡単にできるもの



ではないので、帰りに「参加してよかった」と感想が聞こえてきます。

それがワールドカフェの魅力です。

※男女共同参画センターのワールドカフェは、小平市の「女性の就労支援講座」として年4回開催されています。



## ひらく

第40号  
平成29年3月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課  
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

- |       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 浅野 里美 | 北川 紘二  | 高橋 雅子 |
| 安食世津子 | 酒井 愛   | 谷原 裕子 |
| 阿部 直子 | 坂岸 真子  | 野崎 裕子 |
| 岡 武左  | 笹尾かをる  | 吉岡 博江 |
| 岸 和夫  | 寿福院美屋子 | 吉村 順介 |